

オバコ、マルバオモダカ、イバラモ、フトヒルムシロ、ミズニラ。

河川・水路の水生物

表2に22ヶ所の河川・水路における水生植物の出現状況を示す。90%以上の場所にコカナダモが侵入しており、川の流れに支障を与えるほど大繁茂している所もあった。コカナダモの出現率は西日本全体と比較しても異常に高いといえる。次いで多いのはクロモとエビモである。他の種も西日本の河川・水路でふつうに見られる種だが、ササバモ、セキシウモなどが出していない。また、バイカモの生育する所も見つかっていない。

その他

水田や湿地については、ほとんど調査ができていない。水田では、ウリカワ、オモダカ、コナギが普通種である。デンジソウとミズワラビも確認されている(白岩卓巳氏

による)。調査を進めればヤナギスブタ、イトトリゲモ、サガミトリゲモなども出てくるものと思われる。またウキサ科の種も、もっとふえる可能性がある。

今後の調査を急ぎ、西播磨地方の水生フローラをより完全に把握した上で、他の地域との比較を試みたいと思う。

引用文献

- 角野康郎, 1984. 兵庫県東播磨地方における溜池の水生物. 植物地理分類研究 32: 127—135.
- , 1986. 兵庫県但馬地方の河川の水生物. 水草研究会報 (26): 15—17.
- Komiya, S., 1972. Systematic studies on the Lentibulariaceae. pp. 124+pls. 26, Department of Biology, Nippon Dental College.
- Miki, S., 1935. New water plants in Asia Orientalis III. Bot. Mag. Tokyo 49: 847—852.

千葉県下のカワツルモ

齊藤吉永

カワツルモ(ヒルムシロ科) *Ruppia maritima* L. は、日本では本州以南の各地を始め広く欧亜大陸、アメリカ、アフリカにも分布する種というが、千葉県下では海岸に多く接した低地があって海水にも関係がありそうな場所も相当あるのに、千葉県生物学会で1975年に編集した新版千葉県植物誌によっても市川市行徳で若名東一氏、山武郡蓮沼村で篠崎秀次氏と若名東一氏、長生郡長生村で伊藤至氏と若名東一氏が採集した僅か3ヶ所の記録しかない。

最近の環境の変化は想像以上で既産地が現在までそのまま温存されているとは考えられず或いはそのほとんどが消滅している可能性を否定できない。

そんな時に海が埋立てられた道路用地の一部が、乾燥時にはほとんど地底を見せ雨が降ると30cm程の深さに雨水が滲水するという水位の差のある長さ約100m、巾1.5m程の溝にカワツルモの大繁殖しているところを見つけた。1987. 6. 10 千葉市幕張、千葉メッセ用地内でのことである。

ここは東京湾が埋立てられた場所で旧湾岸から沖に向

て約2kmの距離にあった。この地を中心として3回にわたって広く調査したが、この溝が出来て余り古いものとは考えられない上に近くには他にカワツルモの自生地が見つからないので、いかにしてここに繁殖したかは判らない。

3回の調査中に1回は6羽のカルガモがここから飛び立ち、1回は上空を2羽のコアジサシが飛んでいるのを目撃、他の1回はハクセキレイ2羽とムクドリ1群が溝のまわりに餌をあさっていたことなどから野鳥(特に水鳥)によって種子、或いはカワツルモの一部が足などに附着して運ばれてきたという仮説も成り立つと思うが、もっと多くのこの溝と野鳥の関連性のある事例を集めなければなるまい。

然しこの地が新聞の報道によれば本年よりホテル等の建設に着手するというので折角のカワツルモの自生地も調査を始めたばかりで何んの成果を得られぬまま消滅することが明らかで、まことに残念といわなければならない。

標本は千葉県立中央博物館(仮称)に収めておくので一応の参考とはなるであろう。

(1987. 9. 1.)